

VII 全体財務書類

全体財務4表の範囲は、一般会計等及び公営事業会計（国民健康保険事業勘定特別会計、国民健康保険診療施設勘定特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険事業特別会計、水道事業会計、下水道事業会計）となっています。

なお、対象となる会計間で取引があった場合、その収入及び支出をそれぞれの会計から相殺消去しています。

また、会計間に出資などの関係がある場合、貸借対照表上でもそれぞれ相殺消去しています。

1 全体貸借対照表

令和6年度末現在の全体貸借対照表の状況は、下記のとおりです。

| | |
|-------|----------------|
| 【資産】 | 267,786,179 千円 |
| 【負債】 | 78,460,934 千円 |
| 【純資産】 | 189,325,245 千円 |

資産の内訳は、下記のとおりです。

| | |
|--------|----------------|
| 【固定資産】 | 252,845,159 千円 |
| 【流動資産】 | 14,941,020 千円 |

負債の内訳は、下記のとおりです。

| | |
|--------|---------------|
| 【固定負債】 | 72,080,457 千円 |
| 【流動負債】 | 6,380,477 千円 |

これらを市民一人当たりに換算すると、下記のとおりとなります。

| | | | |
|------|----------|------|------------|
| 【資産】 | 5,931 千円 | | |
| 【負債】 | 1,738 千円 | (参考) | 645 千円 (※) |

(※) 地方債残高から地方交付税算入見込額を控除した実質的な負債額

| | |
|-------|----------|
| 【純資産】 | 4,193 千円 |
|-------|----------|

(※令和7年3月31日現在の住民基本台帳人口・・・ 45,148 人)

貸借対照表の分析

(1) 住民一人当たり資産額

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり資産額} &= \frac{\text{資産 (267,786,179 千円)}}{\text{人口 (45,148 人)}} \\ &= 5,931 \text{ 千円} \end{aligned}$$

(2) 有形固定資産の行政目的別割合

| | | | |
|-------------|-------|------|-------|
| 生活インフラ・国土保全 | 40.2% | 教育 | 12.5% |
| 福祉 | 1.2% | 環境衛生 | 6.6% |
| 産業振興 | 27.2% | 消防 | 0.9% |
| 総務 | 11.4% | | |

(3) 歳入対資産比率

$$\begin{aligned} \text{歳入対資産比率} &= \frac{\text{資産 (267,786,179 千円)}}{\text{歳入合計 (55,018,502 千円)}} \\ &= 4.9 \text{ 年} \end{aligned}$$

(4) 資産老朽化比率

$$\begin{aligned} \text{資産老朽化比率} &= \frac{\text{償却資産減価償却累計額} \quad (\quad 292,385,678 \text{ 千円})}{\text{償却資産取得価格等} \quad (\quad 480,205,652 \text{ 千円})} \\ &= 60.9\% \end{aligned}$$

(5) 純資産比率

$$\begin{aligned} \text{純資産比率} &= \frac{\text{純資産} \quad (\quad 189,325,245 \text{ 千円})}{\text{資産} \quad (\quad 267,786,179 \text{ 千円})} \\ &= 70.7\% \end{aligned}$$

(6) 社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率)

$$\begin{aligned} \text{将来世代の負担割合} &= \frac{\text{地方債} \quad (\quad 45,848,376 \text{ 千円})}{\text{有形・無形固定資産} \quad (\quad 247,181,945 \text{ 千円})} \\ &= 18.5\% \end{aligned}$$

(7) 住民一人当たり負債額

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり負債額} &= \frac{\text{負債} \quad (\quad 78,460,934 \text{ 千円})}{\text{人口} \quad (\quad 45,148 \text{ 人})} \\ &= 1,738 \text{ 千円} \\ &\quad (\text{参考}) \quad 645 \text{ 千円} (\text{※}) \end{aligned}$$

(※) 地方債残高から地方交付税算入見込額を控除した実質的な負債額

2 全体行政コスト計算書

令和6年度の全体行政コスト計算書の状況は、下記のとおりです。

| | |
|----------|---------------|
| 【経常費用】 | 49,621,961 千円 |
| 【経常収益】 | 2,843,917 千円 |
| 【臨時損失】 | 236,914 千円 |
| 【臨時利益】 | 3,630 千円 |
| 【純行政コスト】 | 47,011,328 千円 |

(※純行政コスト＝経常費用－経常収益＋臨時損失－臨時利益)

経常費用の内訳は、下記のとおりです。(※括弧内は経常費用に占める割合)

| | | |
|------------|---------------|-----------|
| 【人件費】 | 6,533,476 千円 | (13.2 %) |
| 【物件費等】 | 19,210,292 千円 | (38.7 %) |
| 【その他の業務費用】 | 1,096,162 千円 | (2.2 %) |
| 【移転費用】 | 22,782,031 千円 | (45.9 %) |

純行政コストを市民一人当たりには換算すると、下記のとおりとなります。

| | |
|-----------------|----------|
| 【住民一人当たり純行政コスト】 | 1,041 千円 |
|-----------------|----------|

(※令和7年3月31日現在の住民基本台帳人口・・・ 45,148 人)

行政コスト計算書の分析

(1) 住民一人当たり行政コスト

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり行政コスト} &= \frac{\text{純行政コスト} \quad (\quad 47,011,328 \text{ 千円})}{\text{人口} \quad (\quad 45,148 \text{ 人})} \\ &= 1,041 \text{ 千円} \end{aligned}$$

(2) 行政コスト対税収等比率

$$\begin{aligned} \text{行政コスト対税収等比率} &= \frac{\text{純行政コスト} \quad (\quad 47,011,328 \text{ 千円})}{\text{税収等} \quad (\quad 41,214,440 \text{ 千円})} \\ &= 114.1 \% \end{aligned}$$

(3) 受益者負担の割合

$$\begin{aligned} \text{受益者負担の負担割合} &= \frac{\text{経常収益} \quad (\quad 2,843,917 \text{ 千円})}{\text{経常費用} \quad (\quad 49,621,961 \text{ 千円})} \\ &= 5.7 \% \end{aligned}$$

3 全体純資産変動計算書

令和6年度の全体純資産変動計算書の状況は、下記のとおりです。

| | | |
|-----------|-----------|----------------|
| 【期首純資産残高】 | ・ ・ ・ ・ | 195,698,762 千円 |
| 【当期増減額】 | ・ ・ ・ ・ ・ | △ 6,373,517 千円 |
| 【期末純資産残高】 | ・ ・ ・ ・ | 189,325,245 千円 |

純資産が減少したのは、有形固定資産等の減少や、基金等の減少が主な要因です。

資産変動額を市民一人当たりに換算すると、下記のとおりとなります。

| | | |
|------------------------|-----------|-------------------|
| 【住民一人当たり純資産変動額】 | ・ ・ ・ ・ ・ | △ 141 千円 |
| (※令和7年3月31日現在の住民基本台帳人口 | | ・ ・ ・ ・ 45,148 人) |

4 全体資金収支計算書

令和6年度の全体資金収支計算書の状況は、下記のとおりです。

| | | |
|----------|-----------|--------------|
| 【期首資金残高】 | ・ ・ ・ ・ | 4,264,361 千円 |
| 【当期増減額】 | ・ ・ ・ ・ ・ | △ 890,743 千円 |
| 【期末資金残高】 | ・ ・ ・ ・ | 3,373,619 千円 |

期末資金残高を市民一人当たりに換算すると、下記のとおりとなります。

| | | |
|------------------------|-----------|-------------------|
| 【住民一人当たり期末資金残額】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 75 千円 |
| (※令和7年3月31日現在の住民基本台帳人口 | | ・ ・ ・ ・ 45,148 人) |